

第3期宮前区区民会議 第3回活力づくり部会

～ 地域特性をコミュニティづくりに活かそう ～

日時：平成22年11月24日(水) 18:00～20:00

場所：宮前区役所 第2会議室

次 第

- 1 これまでの振り返り
- 2 「坂」に関連する既存の取組や他の地域の取組
- 3 「坂」以外の切り口
- 4 その他

【配布資料】

資料1 第2回活力づくり部会摘録(案)

資料2 これまでの議論のまとめ

資料3 活力づくり部会 検討経過

資料4 アイデア出しメモ

第3期宮前区区民会議 第2回活力づくり部会 摘録(案)

日 時 平成22年10月6日(水) 18:00~20:00

場 所 宮前区役所4階会議室

参加者 委 員 山下委員長、直本副委員長、浦野委員、岡田委員、佐藤委員、
藤田委員、豊島委員、手塚委員、恒川副委員長(オブザーバー)
事務局 岩佐企画課長、豊田担当係長、白石職員、鈴木職員
佐谷(コンサルタント)

1 前回のふりかえり

※ 直本副委員長が前回の議事録の概要を説明。

2 コミュニティづくりにつながる仕掛けづくり

※ 事務局より「これまでの議論の整理シート」を説明。

直本 説明内容に異論はあるか。無いようなので、これを前提に進めていきたい。具体的なことを考える中で問題があったら修正していきましょう。

まずはみなさんが感じる「坂」についてのイメージ、考えていることなどを出してもらいたい。

豊島 電動自転車が売れているようだ。

区 電動自転車を使ってツール・ド・ミヤマエを地域対抗でやるというアイデアもある。そういうアイデアを出しましょう。

直本 自転車は美容につながるということをテレビでやっていた。

山下 ギアチェンジ付自転車を坂道で上がるというのものもあるかもしれない。

区 坂道を自転車で上がることによってエコや健康につながる。

藤田 坂の話が出たのは、もともと坂はあまり歩かないということが発端だった。それを歩いてもらうとなると、スタンプラリーがいいのではないか。

浦野 個人的に歩いている人は多い。

藤田 さらに歩いてもらうきっかけをつくることによって、健康づくりにもつながると思う。

浦野 例えば、イベント的に坂を楽しんで歩きましょうというタイトルをつけて、神社や景色の良いコースなどを設定してもいいのではないか。

坂道を上がるための膝の曲げ具合や呼吸の方法などを教える講習会を行い、その後ウォークラリーをやるということも考えられる。その後景品をプレゼントするのもいいのではないか。高齢者の話があったので、坂の歩き方をレクチャーするのはいいと思う。

ツール・ド・ミヤマエもいいと思う。電動自動車、ママチャリ、ギア付き自転車、補助輪付きなどの部門別でできると良い。ただ交通規制の問題があり、少し大掛かりになってしまう。

区 宮前区で一番区内を歩く人間を決めるというイベントでも面白いのではないか。

佐藤 イベントは立ち上げの時に運営する人がいないとダメだと思ってしまう、考え方が

第3期宮前区区民会議 第2回活力づくり部会 摘録(案)

狭くなり、できそうなことしか考えられなくなってしまいます。運営を考えると、発想力がなくなってしまいます。

浦野 ツール・ド・ミヤマエは交通規制があって大がかりかもしれないが、ウォークラリーなら運営の人数はそんなにいらないと思う。また、フロントウンで協力できることもあるかと思う。

佐藤 区でやっている健康教室で、個人ひとりひとりの体重に合わせてカロリー消費を計算してくれた。そういうことができるとうよい。

坂の下にある表示板を利用してカロリー消費に関する表示ができれば経済的。また、ウォーキングをやるとしたら、子育てのイベントのときにプログラムに組み込むことも考えられる。子どもを抱っこしたときに、子ども一人の体重を合わせたときのカロリー消費が分かるとよい。

階段の話が出ていたが、宮前平や鷺沼の駅など実際にある階段をマップに表示してあげられるとうよい。

直本 イベントだけだと参加できない人もいる。区内には名前がついている坂が18ある。参加できない人にも楽しんでもらうためには、坂の特徴を活かした名前・愛称をつけることによって親しみを持ってもらえるとうよいと思う。

手塚 自分の住んでいる有馬第三団地は、建物がひとつしかない団地で13階までであるので、階段を上がれば富士山や夏には花火などの景色が見られるし、団地内で運動もできる。ただ高齢者が多いので、イベントなどで住んでいる人を団地の外に引っ張り出すのが難しい。盆踊りも今年なくなってしまった。

浦野 例えば、団地で鍛えた体力をイベントで発揮してみたらどうか。級やレベルなどを設定し、どれだけ何が身に付いたかわかるものを持って歩けるようにしたらどうか。

直本 ただ団地に住んでいる方はあまりそこに関わろうとしないのではないかな。

佐藤 こども文化センターや老人いこいの家もほとんど利用していないのではないかな。雨が降っても団地で何でもできそう。

直本 ただそれだけで満足しているわけではないと思う。地域への参加を拒否しているわけでもないと思う。

手塚 イベントがあれば住んでいる人に紹介するが、「遠い」「わざわざ」と思ってしまうようだ。区民祭のような大きなイベントであれば、バスが出るのである程度参加するが、普段は会場までの足がない。声をかけてもある程度の年齢の方しか行かない。若い人がいるから参加しない人もいるが、たぶん自分たちの生活が先にあってなかなか出でくれない。

直本 個人でも楽しめるように、坂道の特徴を示すと歩いてくれるのではないかな。イベントに参加してくれる人はそれでいいし、そうじゃない人はそうじゃない人なりの関わり方があると思う。

手塚 住んでいる人みんなを参加させたいというわけではないが、少しは地域に顔を向けてほしいと思う。若い人が入ってくると、その何人かで物事を進めていってしまう。残ったのはお年寄りのみになり、お祭りもなくなった。

藤田 すごく熱心にやっているといいながら、お祭りがなくなっている。それはなぜか。活動のベースとなるのは町内会。お祭りがなくなったのは問題だと思う。

第3期宮前区区民会議 第2回活力づくり部会 摘録(案)

手塚 お祭りなどをやるといえば、みなさん手伝ってくれるが、結局やった後に苦情が来ると、それだったらやめようかという話になってしまう。ずっとそれでやってきて、ちょうど今年 25 回目で 1 つの区切りだったので、やめてしまった。もしこのまま続けていたら、何かトラブルが起きていただろう。

恒川 まちづくり学級でここ 3 年まち歩きをしているが、そのルートの中で必ず坂が出てくる。昔からの道には名前がある。そういうものがあまり知られていない。宮前区の文化や歴史がつながるといえる意味では、坂にこだわらなくてもいろんな意味での活力は出てくると思う。

今度、土橋北公園周辺を歩くが、富士山や花火が観られる場所などいろんなところがたくさんあるので、時間をかけてスタンプラリーをやってもらったり、公園めぐりのスタンプラリーをやったりして、それを制覇したら参加賞がもらえるなど、イベントではなく、恒常的にやってもらえるような仕掛けが必要ではなか。

佐藤 縦(幅広い年代)と横(複数の主体)をつなげていきたい。これまでの区民会議と今回の区民会議の内容を組み合わせたい。

第1期で公園体操があり、今回の健康づくりに関連している。縦のつながりとして、公園体操は高齢者や中高年向けとなっているので、もっと若い人に参加してもらえるようなPRをしたい。

横のつながりとして、10 回体操に参加したら、それが応募券になり、野菜や梨狩りがあたるなど地産地消につながるPRをしつつ、区民会議のPRもできるといい。野菜がダメであれば、みやまえぼ一たろうでやっているような花や花壇のプレゼントのように企業とのコラボレーションがやれるといい。例えば、スタンプを応募すると、地区に花壇ができるなど、みんなで楽しめることがあるとよい。

中高年でも使える筋トレ用の遊具がある公園がある。公園をうまく管理でき、健康維持につながるという思いをプレゼンし、1 位であれば遊具を整備してもらえるなど、区民が頑張れば、まちを変えられるという意識を持てるようなことをやりたい。

山下 地産地消部会でいきなりマラソンという話が出ていた。宮前区は坂道という認識があったから、そういう話が出てきたのだと思う。やはり坂道は活用すべき。

坂道の名称の話が出ていたが、平成 15 年発行のみやまえガイドマップには 38 の坂の名称が出ていた。こういうものをつなげてマラソンをやれると面白い。マラソンであれば、地元で馴染みのない人も参加してくれる。そうすれば、宮前区に根づく人がいるかもしれない。

恒川 まち歩きをやる時は必ず参加者の安全が問題となる。参加人数は 20 名限定していたが、最近 30 名にした。いろんなアイディアはいいと思うが、安全面をどうクリアするか。それをサポートするメンバーの問題もある。

個人個人でもいいから、散歩がてら、公園や坂道に行くようなことを仕掛けるか。

直本 マラソンをイベント的にやるのではなくて、モデルコースを紹介するという方法もある。取り上げ方だと思う。

豊島 その土地の商品がもらえるというのは良い。

直本 農家や商店街をタイアップできるといい。

浦野 達成目標があることは重要。

第3期宮前区区民会議 第2回活力づくり部会 摘録(案)

佐藤 坂道にチャレンジして、最初の体重から一番減った人にグランプリをあげたりというのもある。

浦野 理想は年間を通して誰でも参加できるように、ある拠点に地図があって、自分で率先してやったら、何かをもらえるということも考えられる。

そのような通年のものがあって、なおかつイベントを最大30名程度の参加者で月に1回やったらどうか。神社のどんど焼きなどもPRできると良い。私を含めて、転入者や共働きの人には実はそういう情報がなかなか届かない。

区 第2期のテーマでみやまえカルタを現在作成しており、あと何年かするとできる。先ほど佐藤さんが言っていた第1期、第2期、第3期のつながりであれば、カルタを使ってウォークラリーというのも考えられる。

佐藤 ウォークラリーにつながるものだと思っている。

区 あくまでウォークラリーはみやまえカルタが派生するもの。カルタの主目的は地域を知ってもらうことである。現在カルタ作成のための情報を募集している。

直本 坂から神社や石段に話移ってきているが、坂以外の切り口はあるだろうか。

豊島 例えば、公園に遊具を誘致するというような団体とはどういうものか。

佐藤 公園を管理する人や管理に関わる人だと思う。

直本 結局は新たに組織をつくらうというイメージなのか。

佐藤 そういうイメージ。公園管理運営協議会があるので、そこに何かやりたい人が相談するイメージ。その中でコミュニケーションが広がるとよい。宮前区は公園が多いので、特徴のひとつになると思う。

豊島 危険な遊具が減っているので、遊具を増えるのはとてもいいこと。

佐藤 管理を責任をもってやれるというプレゼンができれば良い。自発的に環境を変えていけるということがこれからのまちづくりに大事だと思う。そうなれば楽しくなる。

直本 若干要求されるレベルが高い話になっていると思う。

佐藤 そうやって整備された遊具を使って遊んでくれるといい。イベントよりぱっと目につくことだと思うし、PRもできると良い。

藤田 通年のチャレンジであれば、常時人が管理しないといけない。神社はいいが、公園や坂は人がいない。商店や神社の協力を得ないと難しい。いろんな要素を組み合わせる中で、坂や神社を通るコースを設定してはどうか。

直本 商店街をコースに組み込むことによって、その中で気に入ったお店があれば、商店街とのつながりもできる。コースのつくり方の問題。

藤田 ウォーキングのコースはガイドブックなどでいくらでも紹介している。

豊島 有馬に住んでいると横浜やたまプラーザに行ってしまうと、区内に目が向かない。それを向かせるようにできるとよい。

直本 宮前区は買い物に行っても商店街がどこにあるのか分からない。

藤田 何もない中で良いものを発掘しないといけない。みやまえばーたろうの企画は、区内に何もないから、苦労していると思う。だからバスに乗ったレポート企画などやっているのだと思う。逆に何があったら良いのかという発想を教えてもらえるといい。

第3期宮前区区民会議 第2回活力づくり部会 摘録(案)

豊島 有馬の植木の里は有名だったが、どんどんマンションになってしまった。

直本 宮前平や鷺沼の駅に看板はあるが、どこに行ってもいいかわからなかった。

区 もともと有馬に植木屋が多かった。

恒川 看板はJAが作ったようだが、開発が進み、緑がなくなっているということがひとつ問題としてあるのと、もうひとつは来る人のモラルがなくて踏み荒らしなどが問題になったようだ。

3 その他

1) 部会名称について

直本 活力づくり部会の名称を継続して、活動の中身をみながら副題をつけるという方法もある。

藤田 活力づくり部会は合っていると思う。

山下 活力は、まちの活力か、個人の健康などの活力かは混在していると思う。しかし、いずれも「活力」だと思う。

藤田 活力という名前で今後やることの中身がどうあろうとカバーできるのではないか。

直本 活力づくり部会でいいか。

佐藤 広報誌を見たときに「活力づくり」でいいかとちょっと疑問に思う。よくわからないかもしれない。興味がない人を引き付けられるか。

直本 活力づくり部会とする。将来的に中身が決まったら副題をつけるかもしれない。

2) 部会長について

豊島 直本さんではダメなのか。

区 できれば部会長は別の人にしてもらった方がいい。

佐藤 2期目の人は今回で終わりなので、部会長になると次の引継ぎがうまくいかないのではないか。

区 3期の部会長は役割を重く考えないでほしい。正・副委員長も参加しているし、相談もできる。役割としては部会の司会や全体会での報告と捉えてもらえばいい。

2期4年が任期なので、やり方を分かっている人のほうがよいという意見もあるし、継続していくものなので、連続でやってしまうことにより、やり方を分かっている人が途絶えてしまうという意見もある。そのあたりはみなさんで考えてほしい。

山下 我々3人(山下委員長、恒川・直本副委員長)はいるので、安心してやってもらえらると思う。

直本 谷山さん、田邊さんは今日来ていない。

区 今日必ず誰かにということでもない。推薦者が出れば、正・副委員長と相談する。

佐藤 1年受けたとして、次の年に交代できるなら、次の人に役割について説明しつつ交代するほうが不安がないと思う。

直本 副部会長に1期目の人に入ってもらい、助言してもらおうということも考えられる。

藤田 谷山さんが適任だと思うが、ただ出席状況が良くないと困る。

区 谷山さんは僧侶兼葬儀屋さんなので、毎回出席できるかという点では難しい。

佐藤 藤田さんはいかがか。話しがそれでも修正してもらえらると思う。

第3期宮前区区民会議 第2回活力づくり部会 摘録(案)

直本 お名前が出た人たちを含めて事務局と検討させてもらう。

3) 次回議題について

直本 次回は、石段や公園などの意見が出たが、坂以外の切り口で検討してはどうか。

佐藤 次回までに既存でやっているスタンプラリーやウォーキングのルートなどの情報があれば、知り合いに聞いて集めてきてほしい。

豊島 青少年指導員がディスカバーウォークをやっている。

藤田 正直言って、区内はあまり面白くないのでみんな外にいつてしまう。面白くないのも特徴だから、それを発掘できればいいと思う。

直本 興味がない人も切り口によって興味をもってもらえるように前向きに捉えたほうがよい。

区 外から人を呼び込めるような大きいものはないかもしれないが、小さいものがあるかもしれないから、それを拾っていけばよい。

豊島 馬絹神社は立派。

区 宮前区の由来になったものらしい。歴史ガイドにもあるが、馬絹村の字として馬絹神社付近のあたりを宮前と言った。馬絹古墳もあり、重要なところだったのだろう。

山下 地元にウォーキングサークルがあり、10ぐらいコースがある。

恒川 多摩区になってしまうが、生田緑地の中にある岡本太郎美術館なども宮前区からのウォーキングにちょうどいい。

山下 坂をつなぎあわせて色々なコースができるとよい。

直本 次回に向けて、坂以外の切り口を考えること、坂に関連するものとして話が出たウォーキング、公園等の事例をもってくるという2点を宿題としたい。

4) 今後の会議スケジュール

区 全体会は11月11日(木)18時から行う。

その前に企画部会を10月28日(木)に正・副委員長の3名で行う。時間は調整。

第3回活力づくり部会は11月24日(水)18時からを第一候補とする。

(以上)

これまでの議論のまとめ ～宮前区を、ただ「住む」だけでなく「暮らす」場所に～

当面の目標

宮前区の基礎力アップ！地域社会の土壌づくりをしよう！

- ・区民が「宮前区」を意識する機会を多くし、地元への愛着や帰属意識をつくる
- ・地域社会と接点を持ち、地域社会に参加する人たちを増やす

ターゲット

今は宮前区と離れた生活をしていても、地域に参加する素養がある層

- ・きっかけさえあれば、すぐにでも地域社会に参加する層
- ・自ら積極的に自ら参加するわけではないが、地域社会に対してアレルギーがない層

<p>宮前区に住んでいる or 長年住んできたが、 これまでは特に地域社会と 関わらないで来た人たち</p>  <p>例) 会社人間、シニア世代</p>	<p>地縁・血縁があるわけではなく、 田園都市線のイメージに惹かれ なんとなく宮前区を選んだ人たち</p>  <p>例) 子育て世代、田園都市線マダム？</p>
<p>核家族や共働きなどで、宮前区は単に 寝るだけになってしまっている人たち</p>  <p>例) 川崎都民</p>	<p>宮前区に引っ越して来たばかりの人たち</p>  <p>例) 転入者、子育て世代</p>

アプローチ

まずは「宮前区」に対してポジティブな気持ちを持ってもらおう

- ・区民のうち、ターゲットとなる層は、宮前区や地域社会に対して「見向きもしない」のではなく、「気が付いていない」だけなので、「宮前区」というまちや地域社会に対し、「楽しそう」「面白そう」「好奇心が湧く」「共感できる」といったポジティブな感情を起こすことで、興味を持ってもらおう

打ち出し方

「生活の楽しみ方」や「まちとの付き合い方」をプロデュース

「宮前区での生活の楽しみ方」、「このまちとの上手な付き合い方」などを打ち出し、まずは宮前区の「まち」に興味を持ってもらい、それを支えている「人」と交流することで、無理なく自然と地域社会に入って来てもらおう！

◆宮前区での生活の楽しみ方

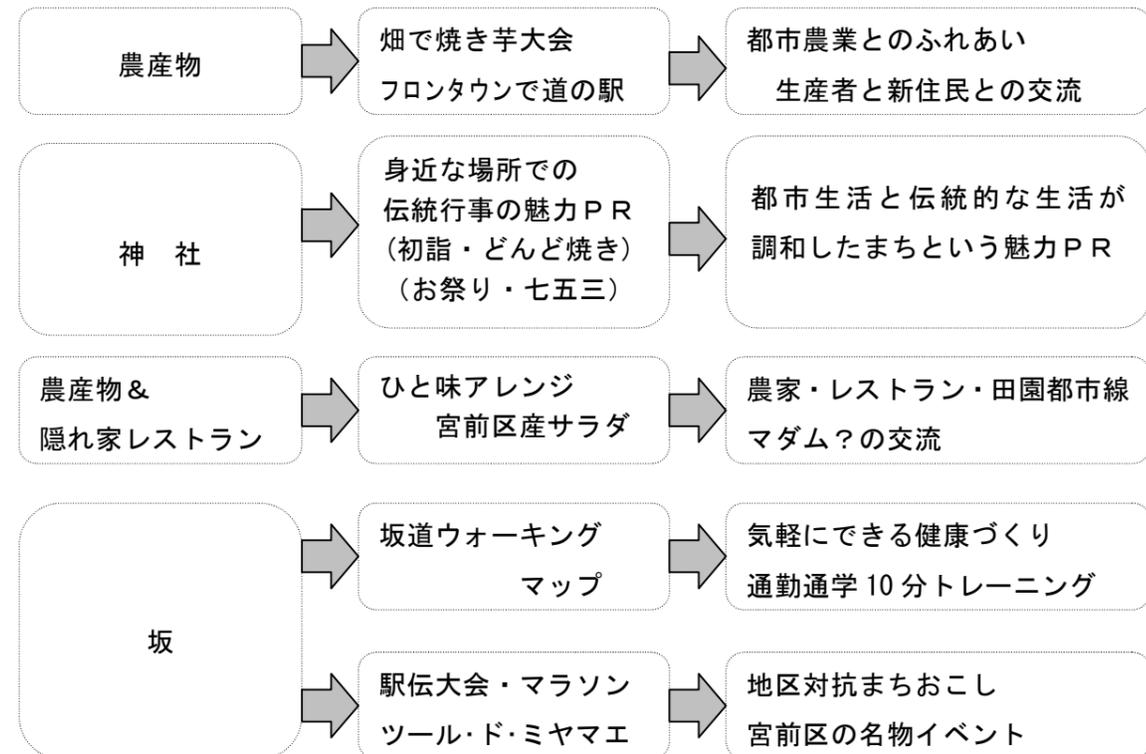
せっかく宮前区に住んでいるなら、宮前区や近所のコトをほとんど知らないまま毎日過ごすよりも、少しずつでも宮前区のことについて知ったり近所の人たちと交流したりすれば、もっと生活が充実するよ！

◆このまちとの上手な付き合い方

宮前区に家を建てたりして、これからこの場所で暮らしていくなら、「坂が多い」とか「高齢になったら大変だ」とか嘆くんじゃなくて、「高齢者になった時に困らないように、坂を健康づくりに活かす」など、このまちと上手に付き合っていく方法を身に付けよう！

今後の検討

これを題材に、こんな仕掛けづくりをしたら、こういうコミュニティづくりに繋がるんじゃないかという仕組みを各部会で考えていく。例えば…



活力づくり部会 検討経過（8月～10月）

第2回全体会(平成22年8月3日)

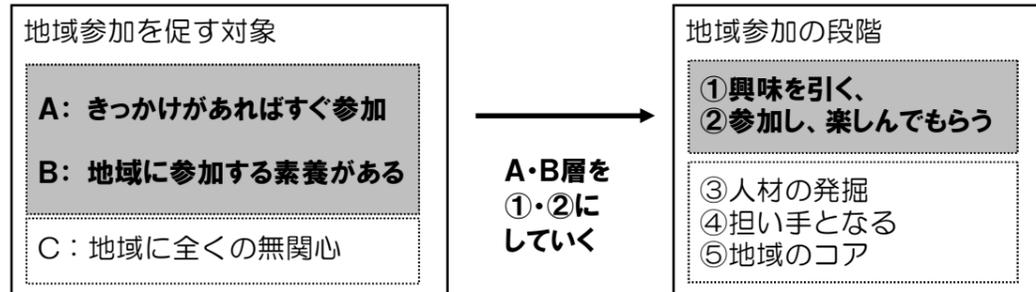
宮前区らしさ・地域特性を前面に打ち出したコミュニティづくりとして、「活力づくり」というキーワードを軸に検討していくことを選定

第1回（平成22年9月7日）

- ・宮前区らしさ・地域特性を活かしたコミュニティづくりのイメージ
- ・具体的な審議テーマ

■コミュニティづくりのイメージ

・区民のコミュニティへの関わりについて議論した。地域への参加を促進する対象として、Cを中心にするという議論もあったが、A・Bのタイプを中心に地域参加のきっかけを提供し、①・②にしていくということになった。



■具体的な審議テーマについて

- ・以下の主な意見が出された。これらをもとに、次回さらに議論を深めることになった。
 - ◇宮前区に多い「坂」を活かす
 - ◇坂を含め複数の資源をうまく組合せる
 - ◇高齢者が元気になる取り組み

第2回（平成22年10月6日）

- ・これまでの整理
- ・コミュニティにつながる仕掛けづくり

■これまでの整理

・地域社会の土壌づくりとして、まちや人に興味を持ってもらい、自然と地域社会に参加してもらうための仕掛けを検討することを確認した。

■具体的な仕掛けづくり等について

- ・主に坂を切り口として議論し、以下のようなアイデアが出された。
 - ◇坂を活用したイベント（自転車レース、スタンプラリー、坂の登り方講習等）
 - ◇イベントではなく誰もがいつでも取り組めるもの（坂だけでなく眺めの良い所や神社公園などを巡るスタンプラリー、各ポイントでのカロリー表示等）
 - ◇他のイベントや既存のものを活用する
 - ◇参加したときの成果が見える取り組みにする（景品プレゼント等）
 - ◇第2期区民会議までの取り組みも活かす
- ・次回は、坂以外の切り口でのアイデア出し、坂に関連する既存の事例を収集する。

■部会名称、部会長について

- ・名称は「活力づくり部会」に決定（今後、副題をつける可能性がある）
- ・部会長は数名を推薦し、委員長・副委員長に一任する。

活力づくり部会 検討経過（11月～）

第3回全体会(平成22年11月11日)

「コミュニティづくりのイメージ」「当面の目標・ターゲット・アプローチ」などこれまでの議論内容を確認し、意見交換を行った。

■意見交換

- ・第1期の体操や第2期の公園など、これまでの取組と上手く関連付けられないか。
- ・仕掛けとしてはイベントが入りやすいが、それだけに終わらず普段の活動につなげられるようにしたい。
- ・いろいろな団体が上手く連携を取り、区民の横のつながりをつくりたい。
- ・区民マラソンの参加賞に梨や地元の野菜を提供するなど、部会同士のコラボも。
- ・「楽しい」と思えることなら広がる。
- ・植木の里を散歩するとか、坂の上で見られる景色は財産。

■次回の部会について

- ・「坂」に関連する他の地域の取組がないか調べる。
- ・坂以外の切り口があるか検討する。

第3回（平成22年11月24日）

- ・坂に関連する取組
- ・坂以外の切り口

■坂に関連する取組や他の地域の状況

- ・「坂道ウォーキングのすすめ」東京都目黒区
- ・「坂道てくてく」横浜市保土ヶ谷区
- ・「ZAMA坂道マラソン」神奈川県座間市

■坂以外の切り口

これを題材にこんな仕掛けづくりをしたらこんなコミュニティづくりにつながる。



コミュニティづくりに繋がる仕掛けづくり アイデア出しメモ

これを**題材**にして、こんな**仕掛けづくり**をしたら、こういう**コミュニティづくり**に繋がる (まちを知り愛着が湧く・住民同士が交流できる)

<p>題 材</p>	<p>仕掛けづくり</p>	<p>コミュニティづくり</p>	
<p>ターゲット</p>	<p>季節・時期 例) 1年中 春・夏・秋・冬 月1回・年〇〇回など</p>	<p>関わる人たち どんな人達が想定される？</p>	<p>行政サイド どんな所管が想定できる？</p>